



ハマナスの花とトウキョウトガリネズミ。世界最小の哺乳類の一種であるトウキョウトガリネズミは、大人の指先ほどの大きさしかありません。日本では北海道にしか生息していないのに、なぜ「トウキョウ」という名前がついているのかというと、詳しくは分かっていませんが、発見者である外国人が「Yezo (蝦夷) =昔の北海道」を「Yedo (江戸) =昔の東京」と間違えたからと言われています。

「インターネットでトウキョウトガリネズミのことを調べていたら、河原淳さんという研究者がいることを知りました。さっそく河原さんに連絡をして、番組の企画を伝えました。当時、私は横浜市に住んでいたのですが、トウキョウトガリネズミについて詳しい話を聞くために、河原さんに会いに札幌市へ行きました。そこで河原さんから『トウキョウトガリネズミは、その姿を見ることがさえないよ』と言われました。それでも一か八かやってみようと思いい、河原さんに協力をお願いしました」

それまで、トウキョウトガリネズミが安定して見られる場所は、浜中町の海辺と同町の無人島「嶮暮島(けんぼつきとう)」。しかなかった。浜中町のトウキョウトガリネズミは、過去に番組で撮影されていたため、六田さんは別の場所で撮影できないかと考えた。河原さんに相

「そのとき、初めてトウキョウトガリネズミを見ました。並外れた体の小ささや見た目、しぐさのかわいらしき、そして謎だらけの生態と、そのどれもに感激し、強く印象に残る仕事になりました」

トウキョウトガリネズミの撮影に大苦戦

「『さわやか自然百景』のトウキョウトガリネズミの映像が好評で、それを今度はNHK『ダーウィンが来た!』でもやろうという話になりました。『さわやか自然百景』で撮影できたので、次もできるだろうと思っていましたし、何よりも、もう一度トウキョウトガリネズミに会いたかったのです。それで、2

トウキョウトガリネズミの魅力にとりつかれた男／六田晴洋さん

謎に満ちた世界最小の哺乳類を求めて 白糠町に移住

●トウキョウトガリネズミ

国内では北海道にしか生息していない世界最小級の哺乳類。体長5センチ、体重2グラム。ネズミと名前がついていますが、ネズミではなくモグラに近い動物。1903年に国内で初めて発見されて以来、約100年もの間、わずか11地点46頭しか捕獲されなかった絶滅危惧種です。同じ場所で2度捕獲できないことから「幻の動物」とも呼ばれていました。2002年、トガリネズミの研究者である河原淳さんが、トウキョウトガリネズミを継続的に捕獲できる浜中町の海辺を発見。さらに2017年、安定して捕獲できる新たな生息場所が発見されました。その地とは・・・



プロフィール
六田晴洋 (ろくた・はるひろ)
1986年、アメリカニュージャージー州生まれ。3歳のときに神奈川県横浜市へ引越す。2021年に白糠町へ移住。仕事はフリーランスのディレクター、カメラマンとして野生生物や自然風景などを撮影している。趣味は仕事とサーフィン。

トウキョウトガリネズミとの出会い

2021年4月、神奈川県横浜市から白糠町へ移住してきた六田晴洋さん(36歳)。六田さんは大学生の頃、野生動物学研究室というところに所属しており、授業で初めてトウキョウトガリネズミの存在を知ったという。

「授業で聞いたときから、世界最小の哺乳類が日本にいるんだと何となく気になっていました。大学卒業後は、カメラマンやディレクターの仕事をしているのですが、テレビ番組の企画を考えているときに、トウキョウトガリネズミのことが真っ先に思い浮かびました。それから自身でいろいろと調べてみたところ、これはおもしろそうだなと思っただけです。それで企画書を作って番組になったのが、2017年にNHKで放送された『さわやか自然百景』です」

番組を制作するにあたって、六田さんに力を貸してくれたのは河原淳さん(63歳)。河原さん